

誰一人取り残さないための学力向上アクションプラン

令和 7 年4月15日現在 江戸川区立篠崎小学校

全国学力・学習状況調査			令和 6 年度江戸川区学力調査結果		
A・B層の割合			A・B層の割合		
年度	国語	算数	学年	国語	算数
令和 8 年度の目標	55.8%	36.0%	第 6 学年	49.4%	49.4%
令和 7 年度の目標	50.0%	33.0%	第 5 学年	50.6%	50.6%
令和 6 年度の結果	44.1%	29.4%	第 4 学年	50.4%	50.5%
令和 5 年度の結果	49.0%	22.6%	第 3 学年	50.6%	50.6%

 ともに、生きる。江戸区	目標達成に向けた取組		
	教員の指導力向上	基礎学力の保障	学習習慣の確立
学校全体の取組	・授業UDの視点から、授業中の学習過程を可視化する。 ・授業の導入で、前単元や前時の学習内容を想起する。 ・各教科等の各単元で問題解決型の学習を計画し実践する。	・東京ベーシックドリル診断テストを学期に1回実施をする。 ・週に1〜2度の朝のモジュール学習で、確実に「ドリルパーク・まるぐランド」に取り組む。内容は、国語と算数について交互に取り組むこととする。 - AB層→当該学年の学習内容、または、発展的な学習内容に取り組む。 - CD層→学年を1つ下げるなど、習熟度に合わせた課題に取り組む。 ・4〜6年生は、朝のモジュール学習で週に1回程度「YOMUよむワークシート」にも確実に取り組む。	・「学年×10分」の家庭学習の実施を、保護者へも周知・依頼する。 ・「江戸川っ子study week」で、各調査結果が反映された学習カードを活用し、未修得箇所の復習と家庭学習を習慣化する。 ・エドタブルールの周知・徹底を図り、特に、家庭ルールについて毎学期末に児童自身の振り返りを行う。 ・5月実施の睡眠振り返り週間、学期始め実施の生活振り返り週間を活用して、規則正しい生活習慣の定着を図る。
特に支援が必要な児童・生徒への手だて	・「個人のめあて」を設定して、それに対して振り返りをする。 ・各学力調査関係の結果やこれまでの児童の学習の習熟度を分析し、個に応じた適切な課題提示と支援を行う。 ・紙媒体やタブレット端末等、学び方の選択肢を用意して児童が選択できるようにする。	・外部委託業者の行う放課後補習教室と連携して、学級担任は学級補習に取り組み、学習支援の充実を図る。 ・2〜6年東京BD診断テスト、4.5年学力定着度調査、3〜6年江戸川区学力調査、2.3年CDTテストの結果分析を基に「ドリルパーク・まるぐランド」で苦手分野の課題を提示する。	・「ドリルパーク・まるぐランド」の課題配布機能を用いて、個のつまずきに応じた課題設定や問題数を精選して、取り組む課題を指定する。
成果指標	・全国学力学習状況調査の「児童・生徒質問紙」における設問「算数の授業の内容はよくわかりますか」への肯定的な回答が90%以上を達成する。	・ワークテストの知識・技能 →AB層（正答率6割以上）80% ・東京ベーシックドリル診断テスト（2〜6年生）、並びに、江戸川区学力定着度調査（4.5年生） →AB層（正答率6割以上）80% ・全国学力、学習状況調査 →全国平均正答率と同ポイント以上	・全国学力学習状況調査の「児童・生徒質問紙」における「学校の授業時間以外の勉強時間」 →6年児童1時間以上の回答割合80%以上達成 →4.5年児童、30分以上の回答割合80%以上達成 ・「江戸川っ子study week」ドリルパークの実施率90%以上 ・学期始めの健康振り返りチェックシート「家庭で学習する（宿題）」の肯定的回答90%以上